

コード	504010101
記入日	H21.6.1

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	湯川直基

事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	伝統文化の保護・継承・支援事業
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統・文化の保存・継承と創造	項コード	5
基本事業コード	50401	基本事業名称	伝統・文化の保護・継承	目コード	1
事務事業コード	5040101	事務事業名称	伝統・文化保護・継承事業	細目コード	
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民		(対象指標1)	24,299人(H20.4.1現在)			
(対象2) 伝統芸能保存会		(対象指標2)	12団体			
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	町内伝統芸能団体12団体の中で指定無形文化財保存会8団体団体に補助を行い支援を行った。 補助交付件数 8件	*****	*****	*****	補助金交付件数8件 ÷ 計画した補助金交付件数8件	*****
		① 補助金交付件数	8件	100%		平成20年度
		(達成率分析)	8団体から補助金の申請があり、内容を審査し交付した。			
		②				
		(達成率分析)				
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
	町内に残る伝統文化を町の宝として後世に伝承していくために、伝統芸能保存会を支援することで、伝統芸能の普及、保存を図ることを目的としている。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	活動団体数11団体÷ 伝統芸能団体数12団体	*****
		① 活動団体数	11団体	91%		平成20年度
		(達成率分析)	今年度は国立劇場小劇場への出演があり各団体活発に活動を行った。1団体が伝承者不足のため活動を休止している。今後積極的な支援を行っていきたい。			
		②				
		(達成率分析)	活動人員は1団体10人で130人の活動を見込んでいたが、活動団体への加入者が増えた為、多くの活動人員の増となった。			

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 補助団体	24	24	16	8	8					
	②										
成果指標	① 活動団体	36	35	24	12	11					
	② 人	390	458	260	130	198					
総事業費 C (A+B)	千円	5,453	5,453	3,373	2,080	2,080					
直接事業費 A	千円	2,653	2,653	1,273	1,380	1,380					
人件費 B	千円	2,800	2,800	2,100	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	5,453	5,453	3,373	2,080	2,080					

コード 504010101

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	伝統芸能の保存、伝承は町として支援していく必要がある。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	時代が変化していくため、町の伝統芸能を後世に伝承していく必要がある。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	伝統芸能の普及、保存であり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	町の伝統文化が大人から子どもたちへ確実に伝えられている地域の活性化につながっている
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	発表の場を増やすことで、参加者の意識が高まり成果を向上する余地がある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	伝統芸能の普及、保存ができず、後世に伝承していくことができなくなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	● できる ● できない	理由	文化協会事業等との統合が可能である。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	直接事業費は計上していないため、削減できない。
	人件費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	限られた人件費の中で効率を上げるよう努力を図っているためこれ以上の削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	今後受益者負担を増やす。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	発表の場を増やすことで、参加者の意識が高まり、有効性を上げることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	町の宝である伝統文化の継承・保存は後世への努めである。今後も継承者の育成と文化保存を支援していくこと。
		効率性	補助金の交付については審査の上、適正な執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	このまま事業を継続	1次	2次	3次	類似事業と整理統合		
	●	●								
					事業内容を見直して事業を継続					事業の休止
					事業費を見直して事業を継続					事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。